

群馬県立富岡高等学校 学校評価一覧表② 全日制(令和3年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題	
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合				
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	黒門キャリアプランやコース制を導入した富岡高校に入学して良かったと感じている生徒・保護者の割合が90%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育方針や教育内容については、生徒、保護者ともに理解し、信頼してくれており、生徒は概ね充実した学校生活を過ごしているといえる。 ・本校の教育方針に従って、多くの生徒が学習と部活動両方に熱心に取り組んでいるが、すべての生徒が文武両道を実践できている状況には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が生徒保護者の期待に応えているものと考えられるが、一方で生徒・保護者のニーズが多様化している。教育方針、重点指導目標等をもとにきめ細かく柔軟な対応が求められている。 ・学校の改善に繋がる意見は積極的に活かし欲しい。 ・コロナ禍で何ができるか、コロナ禍だからこそできる活動を生徒に考えさせて欲しい。指定校の充実で進路と繋がるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を取り巻く環境が大きく変化している中、情報を的確に収集し、教職員間で共有することで本校としての姿勢を改めて明確にする。その上で、黒門キャリアプランやコース制のあり方を適宜検討していく。 ・高校生活の目標を明確にし、自己管理能力を向上させるために、黒門手帳、黒門ノートへの取り組みを改めて指導していく。 ・教科横断的な教育活動の充実を図り、今後の社会に求められる人材の育成を目指す。 	
		生徒指導や進路指導を始め、特別活動や部活動等の学校教育活動全般について信頼しているとする保護者が85%以上である。	A	A	A				
	2 学習と特別活動(部活動・ボランティア等)の両立を目指した教育を推進していますか。	「文武両道」を推進する体制ができていてと感じている生徒が85%以上である。	A	B	B				
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	各教科で丁寧で分かりやすい授業を行っているとする生徒が90%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を継続的にを行い、生徒の学習意欲を引き出す工夫を重ね、一人一人の生徒が学習成果を実感できる授業づくりに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用や主体的・対話的学びが軌道に乗ってきている。学力上位層、下位層の生徒には個別の指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やシラバスを積極的に活用し、生徒の主体的な学習を促す授業の実践を図る。 ・観点別学習状況評価による評価と指導の一体化の実践による授業改善を学校全体で取り組んでいく。 	
		4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が80%以上である	C	C				C
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に4回程度実施する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みや問題を抱えた生徒だけでなく、特に問題の無い生徒にも接する機会を可能な限り確保していくように努める。各分掌、各学年、企画委員会等で組織的に情報を共有している。 ・日々の生徒の様子を観察を怠らず、学年間、分掌間のつながりを密にし、早期発見、早期解消に努めた。 ・コロナ禍の中で授業、部活動、学校行事等が中止し、縮小を余儀なくされた 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が共通理解のもと、同じ方向を向いての指導をお願いしたい。そのため日頃から情報交換や意思疎通が気軽にできる職場の雰囲気づくりをお願いします。 ・十分な取り組みがなされていると思います。SNSで見えにくい部分があるので、小さなサインを見逃さないようにお願いします。 ・コロナの影響もあると思います。コロナ禍でもできる部活やボランティア活動を生徒と職員で考え工夫して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者には状況を伝えるににくい内容であるが、各分掌、各学年、企画委員会等で組織的に情報を共有するシステムは構築されている。引き続き、職員間の報告・連絡を密にする。 ・日々の生徒の様子を観察を怠らず、学年間、分掌間のつながりを密にし、生徒の抱える様々な問題の早期発見、早期解消に努める。 ・コロナ禍の中における授業、部活動、学校行事、文化祭等について、可能な限り実施できる方策を模索する。 	
		6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている。」と認識している生徒が90%以上である。	A	A				A
		7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	部活動に加入している生徒が、90%以上である。	A	C				B
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	黒門キャリアプランの様々な企画(課題解決型インターンシップ、探究活動など)が、自分の進路を考えるために役立つと思う生徒が80%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・黒門キャリアプランの目的を、教職員・生徒・保護者の三者で共通理解を図るため、職員研修・LHR・学年PTAなどで発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型インターンシップ、探究活動などに意義を見出している。黒門キャリアプランは富岡高校進路指導の核であると思う。生徒が主体的に考え行動するような仕掛けを。例えば、先輩から後輩、生徒同士の繋がりを活かしたキャリアアップなど。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の黒門キャリアプランをベースに、生徒の意見(黒門キャリア行事後のアンケートなど)を聞きながら改善していく 	
		9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路実現に向けて、計画的に学習に取り組んでいる生徒が80%以上である	B	B				B
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	学校の様子や生徒の様子がよく分かっているとする保護者が80%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> Webページのデザインを変更し、更新も昨年度よりも頻繁に行っている。また、全職員がWebページ更新することができるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校WEBページで学校の細かな情報や様子を知ることができて、保護者の安心に繋がっている。「富高通信」等の情報発信で学校の様子は中学校にも積極的に提供されている。継続して地域や中学生に富高の魅力を発信して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページの更新を全職員が行うように、係分担やマニュアル等を整備していきたい。 	
		「富高通信」「学年通信」等の学校からの通信を毎月発行し、学校の様子を保護者に伝える。	A	A	A				<ul style="list-style-type: none"> 富高通信は毎月発行し、発行したことをメール連絡網で連絡した。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICTを使用した授業改善を行っている教員を80%以上にする。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業があったことにより、多くの先生が、ICTを使った授業をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の活用力、環境の整備が進んでいることがうかがえる。生徒の確かな学力向上に繋がるような効果的な活用を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを使った授業の効果を共有していきたい。 	
		12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	ICTを用いた業務改善を2つ以上実施する。	A	B				B
VII 特別な支援を要する生徒への適切な対応を行っていますか。	13 学校への適応等その他で悩んでいる生徒、特別な支援を要する生徒に適切な対応をしていますか。	悩みを抱える生徒や特別な支援を要する生徒について、その状況の理解把握は90%以上出来ている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は教育相談係会議、学年会議等職員間の情報共有を機会を増やす取組を実施してきたが、今年度はこの取組をさらに発展させて、ケース会議や外部機関との連携の機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・努力されていると思う。必要に応じて外部専門家、専門機関を含めた連携・協力を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度開始した取組を次年度以降もしっかりと定着させ、本校の指導方法として根付かせていく。そうした点でも教職員間連携・情報共有を緊密にしていく。 	